

# 漢字と仮名の調和に着目した高等学校芸術科書道 における「漢字仮名交じりの書」の授業研究

—漢字古典に調和させる平仮名制作を中心として—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（国語）

鶴口 夏菜

本研究は、高等学校芸術科書道「漢字仮名交じりの書」において「漢字と仮名の調和」に着目し、漢字古典に調和させる平仮名制作の実践をまとめたものである。「漢字仮名交じりの書」において、「漢字と仮名の調和」は大きな特徴の一つであるが、生徒にとって小・中学校の書写学習の中で獲得してきた整正な字形をした平仮名をどのように変化させると漢字と仮名が調和したといえるのか実感しづらいことが課題であると考えた。本実践では、平仮名の変遷過程を参考に草書体の漢字から平仮名を制作することで、古典に依拠した漢字と仮名の調和を工夫して、両者の調和について実感を伴って理解し、表現することを目標とした。

作品制作後に行ったアンケート調査の結果から、漢字と仮名の調和について実感を伴って理解することができた点が成果として挙げられたが、表現することができたかという部分においては課題が残る結果となった。今後本研究の成果を踏まえながら「漢字と仮名の調和」に着目した実践をさらに追及していきたい。